

巻頭言

千田浩一

このたび、第15回東北放射線医療技術学術大会(TCRT2025)「We can Transformation! ～共創と共業～」が盛会裡に終了いたしました。ご参加いただいた皆様、そして大会の準備・運営にご尽力くださった佐藤兼也大会長、小澤友昭実行委員長ならびに実行委員の皆様に、心より感謝申し上げます。

医療放射線分野では、AI(artificial intelligence)画像解析や線量最適化支援システムなどの導入が進み、技術革新の波が着実に広がっています。しかし、その根底にあるのは「安全で信頼される医療」を支える人の技術と判断力です。大きく変化している時代ではありますが、私たちが大切にしてきた現場の知恵と経験を次代へとつなぐことも、まさに“Transformation”の真の意味であるのではと感じています。

今回も多くの学生発表がありました。これは東北放射線医療技術学術大会の大きな特長の一つであると言えますし、大変喜ばしいことであると思っております。大学で教鞭をとる立場から見ても、こうした学会の場は教育・研究の両面で大変意義深いもので、学生が初めて自らの研究成果を発表する姿や、現場の放射線技師の皆様と直接意見を交わす姿を見ると、学ぶ側・教える側双方の刺激になっていることを実感します。知識や経験を共有するこの学会活動こそが、次世代の放射線技術を支える土台になるのだと改めて感じております。次世代を担う若手の成長と挑戦に大いに期待しています。

今回から、学会発表の後抄録が廃止されることになりました。研究演題を発表された方々は、研究内容をまとめて、あるいはさらに発展させて、ぜひ日本放射線技術学会誌へ投稿して、貴重な研究成果を広く周知して頂けることを願っております。

本大会は、まさに“共創と共業”の精神を体現する大会となりました。東北放射線医療技術学術大会が、今後も放射線技術の発展と人材育成の拠点の基盤を担うものとして大いに期待しております。